今日の空手 ―空手史逍遙―

第4回

2023 年 7 月 18 日 \rightarrow 1927 年 7 月 18 日

Back to 96 years ago

「今日の空手」第4回は、今日(2023年7月18日)から96年前にあたる、1927年7月18日へとご案内いたします。

屋部憲通、ハワイで普及活動をなす!

屋部憲通と言えば、空手の歴史を知る者にとっては重要人物の一人として記憶されていると思います。沖縄の 師範学校で「唐手」を教え、のちの「唐手」普及に大きな影響を与えた人物です。

屋部は1919年4月2日(日本からの出発は同年3月)米本国に渡り、1927年まで滞在します。同年3月14日にサンフランシスコで乗船して米本国を離れるのですが、そのまま日本に帰国したわけではありませんでした。 当時、すでに沖縄から多くの人々がハワイに移民していたのですが、それらハワイの沖縄人(具体的には当山哲夫や比嘉静観†)からの要望があって、「唐手」教授を目的に屋部はハワイを訪れたのです。

屋部がハワイへ上陸したのは 3 月 25 日のことで、以来 12 月 26 日に帰国の船に乗り込むまでの 9 ヶ月間も「唐手」の普及・教授活動を行いました。屋部はこの間、ハワイ四島(オアフ島、カウアイ島、マウイ島、ハワイ島)を巡遊するのですが、ちょうど 96 年前の今日(1927 年 7 月 18 日)は、マウイ島のプウネネ日本語学校で、「唐手」についての講演と実演を行っています。

ところでそもそも屋部が渡米したきっかけとは何だったのでしょうか。実は屋部の渡米は体育視察という公務を帯びた、しかも約二ヶ月という時限つきのものでした。今のところどのような経緯があったのかは定かではありませんが、ハワイを含めた在米期間は9年近くにも達しています。さらにこの頃の屋部の周辺情報を整理してみると、遅くとも1921年4月までには公務を離れていたと見られます。ハワイにやってきたばかりの屋部の様子を「シャツもボロボロで如何にも見すぼらしい恰好をしていた」‡という回想もあって、公務を離れて経済的に不如意であった屋部の姿が思い描かれます。

ハワイでは 1900 年代から「唐手」に関する動きが確認できますが、屋部の来訪は空手団体の結成も促すことに繋がり、ハワイの空手熱を大いに高めたのでした。

一鶏肋一

†当山哲夫は現在確認されている中で、ハワイで最も早く空手を教授する団体を設立(1925 年)。接触濃度は不明だが、小学校はあの与那嶺惟俊の在職校。日露戦争へ出征し、同地で空手の演武も行っている。比嘉静観は沖縄県立中学校卒業生(同級生に許田重発など)で、糸洲安恒や花城長茂、我部政恵の謦咳に触れている。神学校に進み郷里沖縄をへてハワイに牧した。1926 年に邦字新聞『洋園時報』の社主(社長は金城珍栄)となった。 ‡ハワイで屋部の世話をした上里良温による回想。上里は沖縄出身の医師で、自身の病院庭園を空手の講習会場として開放・利用させている。

草莽居士